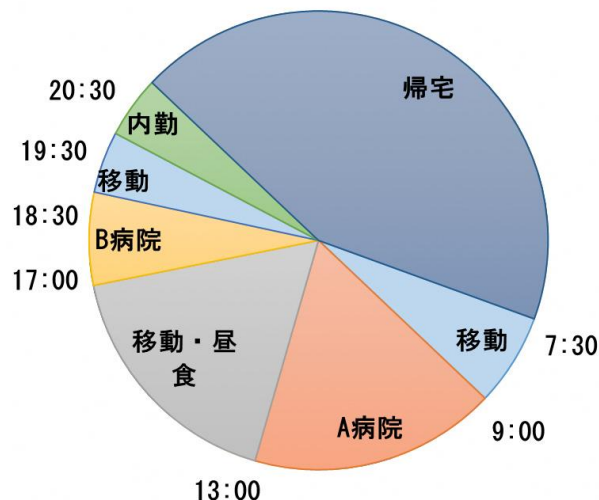
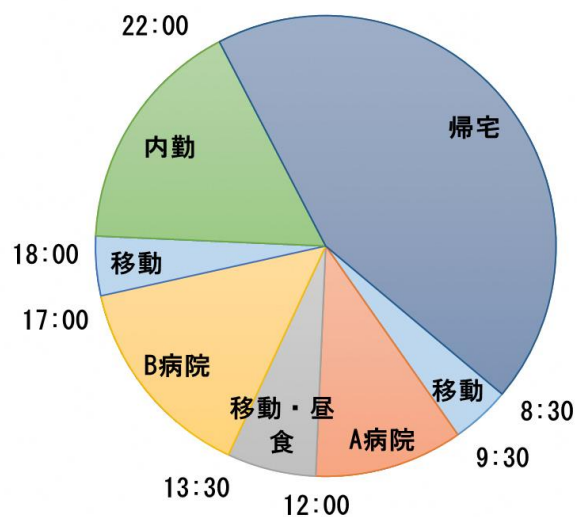


臨床実習の時間外学習について — 義肢装具士業務例（学生臨床実習報告書より） —

(日本義肢装具教育者連絡協議会・日本義肢装具士協会)



患者対応中心のP0



製販一貫性のP0

義肢装具士の1日の業務に関する統計的資料を、日本義肢装具士協会、日本義肢協会及び国立障害者リハビリテーションセンターに確認したが、現時点で提示できる資料はなかった。そこで、学生の臨床実習報告書より義肢装具士の業務の一例を示す。上は主に患者対応を中心として、製作は施設内の製作技術者などに依頼する業務形態である。下は、自身が対応した義肢装具は自身で製作する業務形態になり、製販一貫性と呼んでいる。

義肢装具士は、所属施設から病院・医院に移動し、義肢装具の採型・採寸、および適合の業務を行う。時には数時間かけての移動をすることもある。多くの臨床実習指導者は、この移動時間を使って、臨床業務のフィードバックを行っている。したがって、義肢装具士養成校の臨床実習では、この時間も実習時間として考えている。

帰社後の内勤は、患者対応中心の義肢装具士では、当日に採型・採寸、仮合わせした義肢装具製作情報の伝達や、伝票整理、翌日の適合製作物のチェックを行う。一方、製販一貫性の義肢装具士は、これらの作業に加えて、場合によっては義肢装具の製作を行うこともある。左の例では、製作も含めて帰社後に4時間の残業となっている。

義肢装具士養成校の臨床実習では、いずれの業務形態への同行でも、病院・医院での作業状況によって、臨床実習施設への帰着が、臨床実習時間内に収めることが困難なことがある。

一方、臨床実習施設内での実習では、義肢装具の製作実技が中心となる。この場合、多くの受け入れ施設で、臨床実習時間内での実習を行っている。